

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12061

研究課題名(和文) 外来がん看護面談を担当する看護師をアシストする3ツール(進行・対応・継続)の開発

研究課題名(英文) Development of 3 tools (progress, response, continuation) to assist a nurse in charge of an outpatient cancer nursing interview

研究代表者

安藤 詳子 (ANDO, Shoko)

名古屋大学・医学系研究科(保健)・教授

研究者番号：60212669

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：外来でがんを告知され、不安の中で先が見えず苦悩する患者と家族は多い。看護師が、患者や家族の話聴き、心の声を受け止めて、感情を整理し、さらに、治療の進め方と患者の生活にとって大切なことを折り合せて、先が見えるように手助けできれば、患者と家族にとって大きな支えとなる。そこで、本研究は、外来がん看護面談を担当する看護師をアシストする3ツール(面談の進め方手順・コミュニケーションスキル・面談振り返りシート)を開発し、臨床現場への普及を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、外来がん看護面談を担当する看護師をアシストする3ツール(面談の進め方手順・コミュニケーションスキル・面談振り返りシート)を開発すると同時に、調査結果の分析から、専門資格、がん患者指導管理料算定、面談の経験年数や件数、コミュニケーションスキル等の看護面談をより良く促進する要因を明らかにした。また、コミュニケーションスキルの構造を明解にしたことは、看護師の面談技術向上に貢献すると期待できる。

研究成果の概要(英文)：There are many patients and families who have been notified of cancer at an outpatient clinic and suffer from anxiety because they cannot see the future. If the nurse can listen to the patient and family, listen to the voice of the heart, sort out emotions, and also discuss how to proceed with the treatment and what is important to the patient's life so that they can look ahead, Great support for patients and their families. Therefore, in this study, we developed 3 tools (interview procedures, communication skills, interview reflection sheet), to assist nurses who carry out outpatient cancer nursing interviews and promoted its spread in clinical settings.

研究分野：臨床看護学

キーワード：看護面談 がん患者 外来 コミュニケーションスキル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

がんの罹患率・死亡率が高まる中で、早期診断、早期治療へと関心が集中している。外来診療で、がんを告知する頻度はますます増え、患者と家族が支援を求める声は質量共に増大している。しかし、そこに応えるべき、外来「がん看護面談」を担当する看護師の方略は整っていない。

外来でがんを告知され、不安の中で先が見えず苦悩する患者と家族は多い。看護師が、患者や家族の話を聴き、心の声を受け止めて、感情を整理し、さらに、治療の進め方と患者の生活にとって大切なことを折り合せて、先が見えるように手助けできれば、患者と家族にとって大きな支えとなる。

筆者らは、平成 25-27 年度、基盤研究(C)(一般)“診断早期に緩和ケアを導入する「がん看護面談」の開発に関する研究”を進める中で、面談を担当する看護師をアシストするツール開発への見通しをもち、本課題に着手するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、最初に診断結果を告知する外来の診療場面に看護師が同席し、その後、「がん看護面談」を実施する際に、面談を担当する看護師をアシストする 3 ツール(進行・対応・継続)を開発することを目的とする。3 ツールとは、進行「面談の進め方手順」、対応「コミュニケーションスキルの使い方」、継続「面談振り返りチェック記録」であり、面談を担当する看護師が、適切なコミュニケーションスキルを用いて、患者と家族の関心事を引き出しながら心理的支援と情報提供を進め、事例を蓄積して有効な外来がん看護面談を継続するための手段である。

3. 研究の方法

(1) 面談を担当する看護師をアシストする 3 ツールの試作

(「面談の進め方手順」「コミュニケーションスキル」「面談振り返りシート」)

がん対策情報センターによる「外来がん看護面談のてびき 診断早期の“がんになったら手にとるガイド”活用版」の概念と内容を十分に活用する。マイクロカウンセリング、看護カウンセリング、精神腫瘍学、ソーシャルワークの成書等の関係箇所を熟読し、先行研究を参考にアイテムをプールし、研究グループで検討後、項目リストを作成する。

がん看護専門看護師や認定看護師にフォーカス・グループ・インタビューを実施し、面談担当看護師が、適切なコミュニケーションスキルを用いて、患者と家族の関心事を引き出しながら心理的支援と情報提供を進め、事例を蓄積して有効な外来がん看護面談を継続するための手段となるように修正を重ね完成する。

(2) 「面談を担当する看護師をアシストするツール」に関する質問紙調査の実施

最初に東海地区に調査し回収状況を見て、次に全国調査を実施する。

対象

対象は、全国のがん患者指導管理料算定届出施設に所属する、がん看護専門看護師とがん看護関連の認定看護師(緩和ケア、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、乳がん看護、がん放射線療法看護)である。施設毎の人数の偏りを避けるため、3人以上所属する施設で、1施設2名を対象とする。病院長及び看護部長宛に依頼書を送付し、看護部長には対象者2名分の調査票および返信用封筒を同付して対象者への配布を依頼する。対象者の選定は看護部長に文書で依頼する。回収は対象者から研究者へ直接返送とする。

調査内容

1) 対象者の背景

年齢、性別、看護師実務経験年数、面談の経験年数、専門資格、専門資格の実務経験年数、がん看護専門看護師・認定看護師として院内で認められている活動時間、職位、配置部署、面談やコミュニケーション・スキル研修経験の有無、施設規模、がん診療連携拠点病院指定の有無等

2) 看護師による面談の実施状況

直近 1 ヶ月の面談件数とがん患者指導管理料 1 及び 2 の算定件数、1 件あたりの面談の平均時間、面談のための時間の保障の有無、面談専用個室の確保の有無、面談件数の多い診療科、面談件数の多いがん種、面談に至る流れ等

3) 面談における話題や情報提供(進め方)

3ドメイン「自分らしい向き合い方 3 項目」「社会支援制度や経済的なこと 3 項目」「検査や治療の補足説明、療養生活上のアドバイス 2 項目」の全 8 項目について、想起した 1 面談における実施状況を質問し、回答は「1:行わなかった」から「5:よく行った」の 5 段階評価で得点化する。

4) コミュニケーション・スキル 35 項目

看護師が患者と面談する際に用いるコミュニケーション・スキルについて、「準備 3 項目」「傾聴 10 項目」「受容 2 項目」「共感 2 項目」「感情の反映 3 項目」「言い換え 2 項目」「要約 1 項目」「質問 3 項目」「沈黙 4 項目」「保証 5 項目」の 35 項目を自作した。調査対象の看護師が 1 面談場面を想起し、その際に 35 項目について活用した程度を「1:用いなかった」から「5:よく用いた」の 5 段階で回答を求めて得点化する。

5) 緩和ケアに関する医療者の実践尺度

中澤らが開発した尺度で、妥当性と信頼性が確認されている。その中で、外来看護を直接想定せず、他の調査項目と重複する項目は除外し、下位尺度「コミュニケーション 3 項目」、「患者・家族中心のケア 3 項目」とした。「1:行っていない」から「5:常に行っている」の 5 段階評価となっている。

分析方法

対象者背景及び看護師による面談の実施状況、面談における話題や情報提供、コミュニケーション・スキル項目の記述統計量を算出、コミュニケーション・スキル項目を因子分析(重み付けのない最小二乗法、プロマックス回転)し、各因子の平均点を従属変数とし、関連変数を説明変数として単変量解析、重回帰分析(変数減少法)する。統計ソフトは IBM SPSS Statistics ver.25 を用い、有意水準は 5% とする。

倫理的配慮

調査は名古屋大学大学院医学系研究科生命倫理審査委員会の承認を得て(承認番号 17-129)、対象施設の病院長及び看護部長の承認を得て実施する。対象者には、匿名性、参加の自由意志、データ管理等を文書で説明し、同意書及び調査票の返送をもって同意を得る。

4. 研究成果

(1) 調査結果

調査対象施設 642 件に依頼したうち同意のあった施設は 250 件 500 名で、338 名から回答があり(回収率 67.6%)、有効回答は 309 だった。対象者の年齢は 44.0 ± 6.1 年、女性 303(98.1%) 名、看護師実務経験年数 21.2 ± 6.1 年、面談経験年数は 4.5 ± 3.1 年、がん看護専門看護師は 60(19.4%) 名、認定看護師は 249(80.6%) で、がん看護専門看護師・認定看護師として院内で認められている活動時間 22.3 ± 17.3 、職位は師長相当 47(15.2%) 名、主任相当 145(46.9%) 名、スタッフ相当 113(36.6%) だった。配置部署は緩和ケアチームや相談センター等の専従 198(64.1)

名、外来 69(22.3%)名、病棟 28(13.6%)名、面談やコミュニケーション・スキル等の研修経験ありは 212(68.6%)名だった。施設規模は大規模病院 159 名(51.5%)、中規模病院 138 名(44.7%)、がん診療連携拠点病院指定は都道府県 45(14.5%)、地域 170(55.0%)、地方自治体指定 52(16.8)、指定なし 42(13.6%)だった。

面談実施状況

直近 1 ヶ月の面談件数は Md10(0-162)件、その内がん患者指導管理料 1 を算定した面談件数は Md5(1 - 119)件、がん患者指導管理料 2 を算定した面談件数は Md4(1-94)件であった。「面談のための時間が(がん看護専門看護師・認定看護師活動時間として)保障されている」のは 158(40.5%)で、「面談専用個室が確保されている」のは 101(32.7%)であった。

面談における話題や情報提供

各ドメインの平均点は、「自分らしい向き合い方」 3.7 ± 0.9 、「検査や治療の補足説明、療養生活上のアドバイス」 4.0 ± 0.9 、「社会支援制度や経済的なこと」 2.8 ± 1.2 であった。

コミュニケーション・スキル

コミュニケーション・スキルの各項目のスコアの平均値は、「傾聴」4.18-4.68、「受容」4.28-4.37、「保証」4.14-4.51 は高いスコアで、各項目の平均値は全て 4.00 以上であった。一方、「共感」3.73-3.28、「感情の反映」3.79-4.23、「言い換え」3.65-3.77、「要約」3.96、「質問」3.67-4.20、「沈黙」3.36-4.05 であり、平均値は低かった。

コミュニケーション・スキルの項目分析と探索的因子分析の結果

コミュニケーション・スキルの各項目の平均点と標準偏差から天井効果と床効果を確認したところ、天井効果項目が 16 項目にみられ、ほぼ「傾聴」「受容」「保証」の項目であった。床効果項目はなかった。Kolmogorov-Smirnov の正規性の検定により、各項目は正規分布していないことを確認した。Item-Total 相関ではすべて中等度から強い相関があった。項目間相関では 0.7 以上の項目が 4 項目あり、内容を検討して 2 項目(No.20,34)を削除した。

各項目は非正規分布で項目間の関連があったため、重み付けのない最小二乗法、Kaiser の正規法を伴うプロマックス回転を行った。因子数は初期解で固有値 1 以上のモデル検討後、解釈可能な因子数として 6 因子を抽出した。因子負荷量が 0.35 に満たなかった 1 項目(No.35)は内容を検討した後に削除し、6 因子 29 項目を採用した。各項目の共通性は 0.31-0.74 であった。因子間の相関は、Spearman の相関係数で $r = 0.45-0.72$ と中等度から強い関連があった。

各因子の平均点は、第 1 因子 3.84 ± 0.67 、第 2 因子 4.42 ± 0.54 、第 3 因子 4.32 ± 0.58 、第 4 因子 3.78 ± 0.95 、第 5 因子 4.31 ± 0.65 、第 6 因子 3.78 ± 0.84 であった。

第 1 因子には 8 項目(No.23,22,21,19,25,18,24,26)が負荷し、「感情の反映」「言い換え」「要約」「質問」の項目が集まった。これらは、患者の問題を深く捉え、ケアの方向性を探っていく道筋を意味しており【探索】と命名した。第 2 因子には 6 項目(No.5,7,6,4,8,9)が負荷した。「傾聴」の項目が 2 つに分かれ、看護師が最初に患者と出会い傾聴するための行動²¹⁾で構成されており【傾聴】と命名した。第 3 因子には 6 項目(No.11,14,10,12,15,13)が負荷した。「傾聴」の項目で主に言語的に聴く姿勢を示す項目(No.11,10,12,13)と、患者の思考をあるがままに「受容」するプロセスの項目(No.14,15)が混在していた。傾聴から受容は一連のコミュニケーションの流れであり分離は難しく、言語的な傾聴を経て受容に至るという意味で【受容】と命名した。第 4 因子には 4 項目(No.29,28,30,27)が負荷した。「沈黙」ドメインの項目のみで構成された。患者が沈黙した場合の看護師の対応であり【沈黙】と命名した。第 5 因子は 3 項目(No.32,31,33)が負荷した。「保証」ドメインの項目のみで構成された。患者の状況や気持ちを肯定的に労い認め、今後の看護支援を保証し安心を伝える項目で構成されていたため【保証】と命名した。第 6 因子は 2 項目(No.16,17)が

負荷した。共感的な理解の具体的な思考方法で構成され【共感】と命名した。

コミュニケーション・スキルと対象者の背景及び面談実施状況との関連

コミュニケーション・スキルの因子ごとに、関連変数との単変量解析後、多重共線性を Variance Inflation Factor < 2 として確認し、重回帰分析(変数減少法)を行った。各々関連した変数は、【探索】と「専門資格:がん看護専門看護師」「面談専用個室が確保されている」「自分らしい向き合い方」「がんの検査・治療の補足説明と療養生活のアドバイス」、【傾聴】と「面談のための時間が保障されている」「自分らしい向き合い方」「がんの検査・治療の補足説明と療養生活のアドバイス」、【受容】と「専門資格:がん看護専門看護師」「自分らしい向き合い方」「がんの検査・治療の補足説明と療養生活のアドバイス」、【沈黙】と「看護師の実務経験年数」「自分らしい向き合い方」「経済的なこと」、【保証】と「専門資格:がん看護専門看護師」「自分らしい向き合い方」「がんの検査・治療の補足説明と療養生活のアドバイス」、【共感】と「研修経験がある」「自分らしい向き合い方」「がんの検査・治療の補足説明と療養生活のアドバイス」である。

(2) 総括

調査結果分析から試作したアシスト3ツール(面談の進め方手順・コミュニケーションスキル・面談振り返りシート)の評価は概ね良く、実際の臨床に採用できることを確認した。また、外来がん看護面談をより良く促進するために、専門資格、がん患者指導管理料算定、面談の経験年数や件数、コミュニケーションスキル等が関連することを明らかにした。33回、34回の日本がん看護学会学術集会での交流集会でアシスト3ツールを発表し、盛況な参加者で関心の高さが伺われた。また、がん看護関連雑誌に連載記事を掲載し、アシスト3ツールを分かりやすく活用しやすいように工夫して公開した。一つの方策として提示し、臨床の実践に繋げることができたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 宇根底亜希子, 河野彰夫, 富田敦和, 石樽清, 杉村鮎美, 佐藤一樹, 安藤 詳子	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 ゲムシタピンによる血管痛の関連要因の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Palliative Care Research	6. 最初と最後の頁 187-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 新藤さえ, 杉村鮎美, 光行多佳子, 杉田豊子, 安藤詳子	4. 巻 41(1)
2. 論文標題 がん患者の家族の予期悲嘆に対する緩和ケア病棟における看護支援の構造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 死の臨床	6. 最初と最後の頁 152-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中井真由美, 安藤詳子, 光行多佳子, 杉村鮎美, 杉田豊子, 小島勇貴, 北川智余恵.	4. 巻 23(6)
2. 論文標題 国内における抗がん薬による皮膚障害に関する研究の動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 631-636
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 安藤詳子, 光行多佳子, 堀涼恵, 牛山喜久恵, 杉村鮎美, 杉田豊子	4. 巻 32 (13)
2. 論文標題 外来がん看護面談における方略	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BIO Clinica	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤詳子	4. 巻 69 (8)
2. 論文標題 4章. ネットワークを生かした質の高い緩和ケアの実現に向けて-1. 日本の現状、そして、地域緩和ケアの創生へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 看護	6. 最初と最後の頁 118-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤詳子	4. 巻 28
2. 論文標題 地域緩和ケアにおける看護実践力開発に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SGHがん研究報告	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumi Sugimura, Shoko Ando, and Koji Tamakoshi	4. 巻 23 (7)
2. 論文標題 Palliative care and nursing support for patients experiencing dyspnoea	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Palliative Nursing	6. 最初と最後の頁 342-351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正道, 藤本喜久恵, 阿部まゆみ, 光行多佳子, 安藤詳子	4. 巻 39 (1)
2. 論文標題 がん診療連携拠点病院の「がん患者サロン」利用者にもたらす要因-病院スタッフからみた利用者の変化から-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 死の臨床	6. 最初と最後の頁 166-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤詳子. 光行多佳子. 堀 涼恵. 牛山喜久恵. 鈴木やよひ. 山本陽子. 杉田豊子. 佐藤一樹	4. 巻 3(3)
2. 論文標題 外来がん看護面談のコミュニケーション・スキル 「準備」「聴く姿勢」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エンドオブライフケア	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤詳子. 光行多佳子. 堀 涼恵. 牛山喜久恵. 鈴木やよひ. 山本陽子. 杉田豊子. 佐藤一樹	4. 巻 3(4)
2. 論文標題 外来がん看護面談のコミュニケーション・スキル 「探索」「傾聴・受容」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エンドオブライフケア	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤詳子. 光行多佳子. 堀 涼恵. 牛山喜久恵. 鈴木やよひ. 山本陽子. 杉田豊子. 佐藤一樹	4. 巻 3(5)
2. 論文標題 外来がん看護面談のコミュニケーション・スキル 「共感」「沈黙」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エンドオブライフケア	6. 最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤詳子. 光行多佳子. 堀 涼恵. 牛山喜久恵. 鈴木やよひ. 山本陽子. 杉田豊子. 佐藤一樹	4. 巻 3(6)
2. 論文標題 外来がん看護面談のコミュニケーション・スキル 「保証」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エンドオブライフケア	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木やよひ.安藤詳子.光行多佳子.牛山喜久恵.堀 涼恵.杉村鮎美.杉田豊子	4. 巻 24(7)
2. 論文標題 早期緩和ケアを導入する外来がん看護面談の効果的な方法の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 695-701
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1342-0569	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木やよひ.杉田豊子.安藤詳子.	4. 巻 25(1)
2. 論文標題 うまくいく！外来がん看護面談 第1回10のステップでできる！外来がん看護面談	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 83-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1342-0569	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 光行多佳子.山本陽子.安藤詳子.	4. 巻 25(3)
2. 論文標題 うまくいく！外来がん看護面談 第2回 限られた時間内で最大限のコミュニケーションを	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 273-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1342-0569	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀 涼恵.牛山喜久恵.安藤詳子.	4. 巻 25(4)
2. 論文標題 うまくいく！外来がん看護面談 最終回 高めたい！コミュニケーションスキル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 がん看護	6. 最初と最後の頁 350-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) ISSN 1342-0569	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 光行多佳子、杉村鮎美、杉田豊子、大野晶子、安藤詳子
2. 発表標題 東海3県における外来がん看護面談に関する実施状況
3. 学会等名 第44回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下千尋、杉村鮎美、光行多佳子、岡嶋彩乃、杉田豊子、安藤詳子
2. 発表標題 呼吸器内科病棟にて苦痛緩和のための鎮静が導入された2事例の比較
3. 学会等名 第42回日本死の臨床研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤詳子、新藤さえ、杉村鮎美、光行多佳子、杉田豊子
2. 発表標題 家族の予期悲嘆支援に対する緩和ケア病棟看護師の認識
3. 学会等名 第42回日本死の臨床研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤詳子、光行多佳子、杉村鮎美、牧 茂義、大野晶子、杉田豊子、佐藤一樹
2. 発表標題 外来がん看護面談を実施する看護師のアシストツール-進行手順-
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 光行多佳子、安藤詳子、杉村鮎美、牧 茂義、大野晶子、杉田豊子、佐藤一樹
2. 発表標題 外来がん看護面談を実施する看護師のアシストツール-コミュニケーションスキル-
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 光行多佳子、安藤詳子、杉村鮎美、牛山喜久恵、堀涼恵、鈴木やよひ、牧 茂義、杉田豊子、佐藤一樹
2. 発表標題 外来がん患者との初回面談における看護師のコミュニケーション・スキルの因子構造とその関連要因
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤詳子、山田直美、新藤さえ、光行多佳子、杉村鮎美、杉田豊子
2. 発表標題 緩和ケア病棟の看護師による緩和ケア実践の関連要因-東海地域における調査から-
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤詳子、光行多佳子、牛山喜久恵、堀涼恵、鈴木やよひ、山本陽子
2. 発表標題 外来がん看護面談を担当する看護師をアシストするツールの提案
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木やよひ、堀涼恵、牛山喜久恵、光行多佳子、杉村鮎美、新藤さえ、杉田豊子、安藤詳子
2. 発表標題 診断早期における外来がん看護面談の効果的な方法に関する検討
3. 学会等名 第22回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀涼恵、日高、牛山喜久恵、鈴木やよひ、光行多佳子、安藤詳子
2. 発表標題 肺がんの夫と死別した直後に乳がんと診断された患者へに対する外来がん看護面談に関する検討
3. 学会等名 第41回日本死の臨床研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中井真由美、吉田美紀、木下紀道、安形直之、光行多佳子、杉村鮎美、杉田豊子、安藤詳子
2. 発表標題 進行乳がん患者と夫が夫婦として新しい関係性を構築する過程～M・ニューマン理論を用いて～
3. 学会等名 第32回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 光行多佳子、伊藤正道、牛山喜久恵、杉村鮎美、杉田豊子、安藤詳子
2. 発表標題 全国のがん診療連携拠点病院における「がん患者サロン」運営上の困難点-自由記述回答の分析-
3. 学会等名 第41回日本死の臨床研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本喜久恵, 野村史郎, 濱嶋なぎさ, 大路小千代, 天野真由美, 堀涼恵, 鈴木やよひ, 杉村鮎美, 光行多佳子, 杉田豊子, 安藤詳子
2. 発表標題 肺がん告知後のがん看護面談の効果に関する検討
3. 学会等名 第21回日本緩和医療学会学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 杉田豊子, 杉村鮎美, 安藤詳子
2. 発表標題 がん患者支援における地域連携に関する研究の動向
3. 学会等名 第18回日本看護医療学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鈴木やよひ, 堀涼恵, 牛山喜久恵, 光行多佳子, 杉村鮎美, 新藤さえ, 杉田豊子, 安藤詳子
2. 発表標題 診断早期の外来がん看護面談に関する がん看護専門看護師向け調査
3. 学会等名 第31回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 光行多佳子, 安藤詳子, 杉村鮎美, 牧 茂義, 杉田豊子
2. 発表標題 外来がん看護面談における「診断告知後」と「治療開始以降」の時期による面談話題の比較
3. 学会等名 第45回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 安藤 祥子 「 部2章. がん患者サロンの経緯と現状、および展望」	4. 発行年 2016年
2. 出版社 青海社	5. 総ページ数 133 (8-11)
3. 書名 緩和ケア白書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	杉田 豊子 (SUGITA Toyoko) (10454373)	名古屋大学・医学系研究科(保健)・助教 (13901)	
研究 分担者	大野 晶子 (ONO Akiko) (30285233)	日本福祉大学・看護学部・准教授 (33918)	
研究 分担者	阿部 まゆみ (ABE Mayumi) (80467323)	名古屋大学・医学系研究科(保健)・特任准教授 (13901)	